

山中湖での夏合宿を振り返って

<2008年夏合宿の記録>

総監督

大津保男

昨年に引き続き、「山中湖交流プラザ『きらら』」の人工芝グラウンドなどを利用しての夏合宿となった。子供たちの人数は一段と増え、52人（6年生14人、5年生15人、4年生12人、3年生11人）であり、同乗引率者を考えると、貸し切りバスの方もこれが限界という状況である。朝から来ていただいた多くのご家族に見送られ、バスと乗用車でBJ御一行は、ほぼ定刻に出発し山中湖へと向かった。



車内での騒音防止のためと、昨年のように車中でのビデオも用意していたが、DVD設備しかないとのことで断念。だが、2時間余りの車中は、子供たちも意外とおとなしく、一昔、二昔前のように遠足的な雰囲気ではしゃいだり、飽きてきて動き回る子も少ない。もっとも、補助席を使っただけの満席状態であり、動けるわけではないのだが・・・。

途中でのちょっとした渋滞を除けば、ほぼ予定どおり到着。勝手知ったる宿舎ということもあり、まずバスから広間に荷物を運び込み、一段落したところで、ご主人にご挨拶とした。部屋割り、諸注意、今回のスローガンの確認、チャレンジシートの提出など一連のオリエンテーションを済ませてから、昼食までは自由時間の一休み。グラウンドは近いし、子供たちも大体の様子は承知しているため心配はない。

ところがである、11時40分を過ぎた頃だろうか、突然大きな地震の揺れを感じ、ここで全員討ち死にかと一瞬ヒヤッ。だが、テレビのテロップで震源地は福島県沖であることを知り一安心、みんなほっと胸をなで下ろした。

昨年は「チェンジ」の実践もあり、テーマ別練習など少々趣向を凝らしたが、今年は少し手抜きをして、まさにテーマである『5ハン』のうちの「判断」・・まずは自分で決める・・ということに期待して、各学年コーチ陣にお任せである。

その間、自分はここ数年恒例となった「班別ミニ駅伝大会」についてのコースなどの下調べに出かけた。どうやら今日と明日で、敷地内の山中湖シアター「ひびき」では、アマチュアバンドフェスティバルが行われるらしく、準備やリハーサルが進んでいた。



駅伝での予定のコースは決まったものの、エネルギー切れなのか体調不良ということで、6年生の「けいご」が最初からリタイアのため、子供は51人の参加と中途半端。そこで急遽のサプライズ企画として、走るのが苦手なコーチ陣もほぼ全員に加わってもらい、各班12人の60人とした。さらに各班をそれぞれ相談の上で二分してもらい、5班×2組の10組で一度に走ることにした。同じ班の着順得点は合計されるため、各班の組み分けの戦略が吉と出るか凶と出るかということになる。

学年などのギャップや大人の人数にも差があるため、ハンデをつけてあるが、素晴らしいことに、各組とも全員が完走し襷は無事つながった。(とは言え、後の反省会では、子供たちの手前は平静を装ったが、一部コーチ陣から結構きつかったとの感想や、次年度に向けての牽制があったことを書き添えておこう。)



入浴と夕食の後のミーティングでは、各コーチから今日の練習のねらいや内容を報告してもらい、子供たちには感想文に備えて今日の出来事などの記録をしてもらった。また、この間に、1学期の第48回BJオリンピックで、これまでの歴代新記録を2種目も更新した4年生の鮫島君に、新記録認定証とご褒美のトレーニングシューズとボールを授与したが、うらやましさ半分のみみんなも、拍手で彼の偉業を祝福してくれた。



翌朝の散歩は湖畔に向かい、様々な団体が集まってきて体操やランニングなどをしている中、我々は軽く身体を動かしたり声を出す「挨拶ゲーム」を試みた。集団の中での積極性が試され、周囲を見て判断・反応する練習にもなる、こういうPA（プロジェクトアドベンチャー）系ゲームは結構奥が深いものであり、コーチ陣には是非とも研究して、日頃から取り入れてもらいたいところだ。

恒例の班別記念写真の撮影会では、各班ごとに決めポーズをとるようリクエストしたが、まだまだリーダーシップや積極性、頭の柔軟性などには欠けるようで、

こういう突然のリクエストに即応できるようになることも、サッカーの技術とともに大切なものではないだろうか。もっとも、今回の班分けでの班長や副班長の指名は、ある意味、そういう任務にチャレンジしてもらいたいと思われる子供から選んでいるので仕方ないのだが・・・。



合宿期間中のメインとなる二日目は、こちらに来てから急遽決まった練習試合を織り込んでの活動となった。昨年は初めてのため、よそのチームを呼んでこんな良いグラウンドを「タダで」使わせるのはもったいないと、独占使用をしたのだが、そこは懐の深いB Jのこと、奉仕の精神、博愛の精神で友好を図ることとした。

ラインが引けないため準備段階で少々苦労したものの、日頃からお世話になっている平塚のF C金目や今回初めて対戦した藤沢のつかさサッカークラブとは、短い時間ながらも充実した交流試合ができた。できることならば、試合の結果でもB Jの懐の深さを発揮できれば良かったのだが・・・。

また、この日は日曜日ということもあって多くのサポーターが駆けつけてきてくれた。とりわけ試合後の課題別練習やコーチ陣とのフルコートでの試合では、中学生も数名加わってお手伝いやら、良い見本・悪い見本、さらには得点に絡んだり、足を引っ張ったりと、色々活躍してくれたのは有り難いことである。

こうした中、Sコーチが練習中に足を痛めて、自力で歩くのが覚束ない状態になったとのこと。これ幸いと宿泊や夜の反省会に誘ったが、結局は愛車とともに一人で厚木方面に向かったのは、山中湖で子供たちの世話を奮闘する奥さんとは一緒にいられないよほどの事情があったのだろうか。

ミーティング後のお楽しみビンゴ大会では、大広間に溢れんばかりの熱気に包まれ、それぞれ賞品を手にしたが、お母さん方からのサプライズ企画ということで、マスクの当たった子供5人に即興で何かさせて欲しいとのこと。

「イヤダ〜」、「ダメダメ」、「ムリムリ」など口癖のように拒絶する子供たちに、何とかマスクをかぶらせ、また、みんなのリクエストなどにも支えられ、最終的にはいくつかの芸？を披露してもらうことができた。この辺りも課題である「5ハン」のうちの「判断」や「反応」ということになるのだろう。

半分冗談だが、BJとしてもサッカーだけでなく、子供たちに多彩で柔軟なアイデアを身につけさせたり、そういう才能の発掘や育成のために、何かカリキュラムを加えるべきなのかも知れない。



三日目も天気は上々、朝方は子供たちも感想文の仕上げやら帰り支度やらで結構忙しい。今日の練習は、隣にあるクレイのグラウンドの「広っぱ」であり、班別対抗試合が中心となる。

去年に比べてコーチの人手も多いため、重いゴールの移動やライン引きはスムーズに進み、9時半前には準備も整いキックオフとなった。8人制でのリーグ戦を10試合ほど行ったが、3年生から6年生までが混在してのゲームは普段なかなか機会がないため、良い経験になったことと思う。特に、自分たちだけでポジションや作戦を考え、ゲームメイクをすることは、普段とは違う判断が必要となり良いことだ。



短い時間ではあったが、班の威信をかけてのゲームを楽しんだ後は、人工芝の最後の感触を味わいつつ、全員での記念写真を撮り、3日間の日程はすべて終了。



こうした恵まれた環境で普段から思う存分に練習できたならば、どれだけサッカーが好きになることだろうか。特に今回の合宿では、期間中を通して天候にも恵まれ、大したトラブルもなく楽しく過ごすことができたのは幸いである。

これは、手際よく段取りをとってくれた引率のお母さん方や、熱心に活動してくれたコーチ陣、そして応援に駆けつけてくれた皆さん方のおかげだと言える。

本当にご苦労さまでした。